

竹中氏陣屋跡

1 竹中氏陣屋の沿革

竹中半兵衛重治没後の慶長 13 年(1608 年)、嫡子の重門が、それまで居館(きょかん)を西福(さいふく)村に置き、詰城としていた菩提山城を廃し、岩手にまわりに水濠を巡らした館を構え、その周囲に家中屋敷を置き陣屋とした。

当初は岩手城と呼ばれたが、江戸初期 6,000 石、後に 1,000 石を分地し、5,000 石の旗本身分にとどまったため、陣屋と呼ばれるようになった。

現在の陣屋跡地は、小学校や幼稚園の敷地になっているが、重門が構えたがっしりした石垣と白壁の櫓門は陣屋の正面に設けられている。

2 陣屋屋敷

坪割は、東辺 40 間 5 尺(74.23m)、北辺 37 間半(68.18m)、西辺 36 間 1 尺(65.75m)、南辺 42 間 2 尺(76.96m)、総坪数 1,636 坪半である。

3 濠(ほり)

濠は陣屋を取り囲んでおり、濠の一部は関ヶ原の戦いの後に賜った米 1,000 石を費用として完成したといわれ、千石濠の名が残っており、櫓門付近は石積がみられる。

櫓門左側 70 尺(20m) は水濠である。右側 214 尺(64m) も水濠であったが、現在は埋め立てられている。

他の周囲については、陣屋の南側は小学校や幼稚園の敷地となり、遺構は残されていないが、北側の屋敷土塁や濠は残されており、近世陣屋遺構の好例として重要である。

4 櫓門(やぐらもん)

県指定文化財となっている櫓門は、間口 6 間(10.9m)、奥行き 3 間(5.45m)、旗本身分で全国唯一現存する城郭建造物とされている。

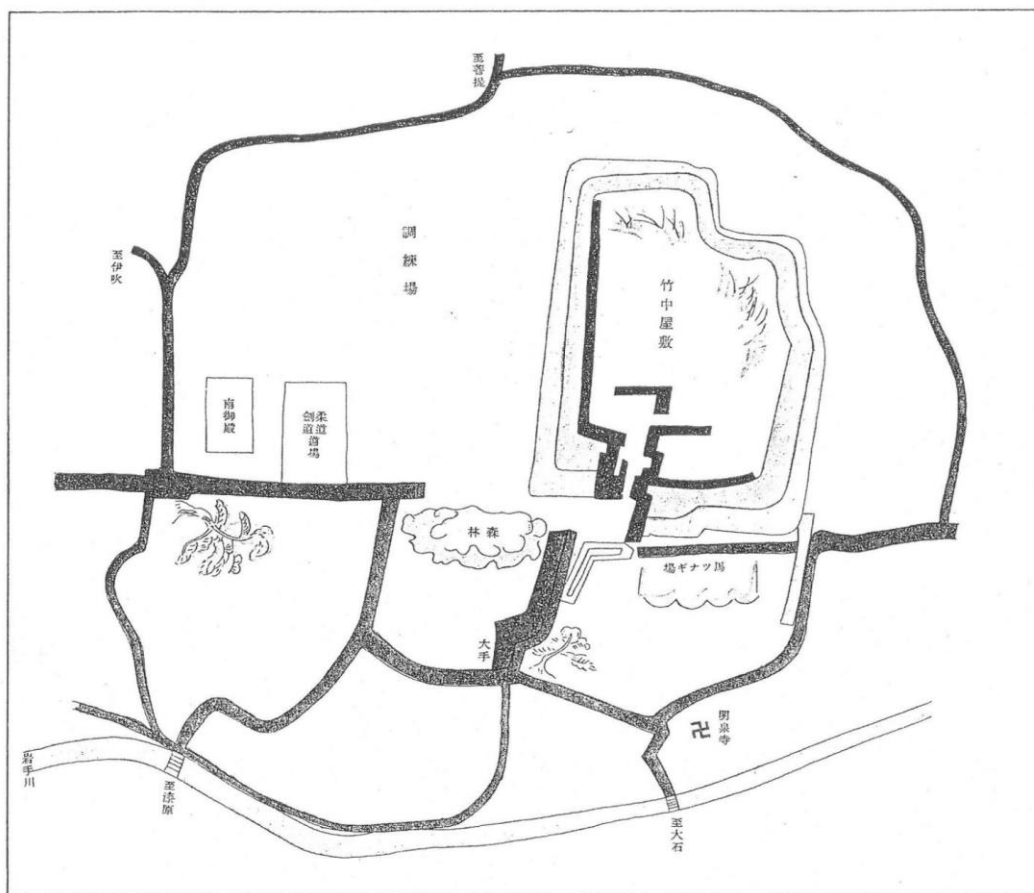
この櫓門は、関ヶ原玉の濱六兵衛の屋敷(玉城)から、杉山内蔵助(重元の妻の妹の婿・竹中半兵衛の叔父)が移設したといわれている。

明治に入り櫓門は、明治新政府の「幕府建造物破壊令」により破壊の対象になったが、高橋弥八郎氏などが「櫓門は菁莪学校の正門である」と主張し、その努力により明治 8 年に現在の岩手小学校の前身である「菁莪学校」の正門として位置づけられ、昭和 20 年頃まで櫓門の中は教室として利用されて今日に至った。



岩手陣屋付近古図（岐阜県史跡名勝天然記念物調査報告書より）

現在の岩手地区まちづくりセンターを中心とする一帯の状況



家中屋敷圖（幕末）岐阜縣史蹟名勝天然記念物調査報告書より

